
毛髪

じかん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

毛髪

【Nコード】

N1905V

【作者名】

じかん

【あらすじ】

朝、身だしなみをチェックしていたら異変が・・・。

朝、アンティークショップで買った姿見で身だしなみをチェックしていたら、鏡が歪みだした。

徐々に湾曲し、眩暈かと思ったが、鏡の中の彼の姿も歪み始めると、体温が上がっていくのが感じられた。

次第にだが、ゆっくりと、少しずつ熱くなってくる感覚が強まった。そして、髪の毛が総立ちになる姿が、歪んだ姿見がその様子を映している。

しばらくすると鏡の中から、黒っぽい色の細い物が何本も現れ、よく目を凝らして見ると髪の毛で、顔の前でぐにやぐにやと動き、二手に分かれた。

一方は頭の方に、もう一方は首から下へと巻き付きながら伸びた。手足の自由を奪われて、声もまともに出せず微かな悲鳴にしかならなかった。

すると彼の髪が伸び、相呼応して動き出し、姿見から現れた幾本もの髪との宛らダンスだ。

それから互いに接触し、一本一本が結びつくと、一瞬身体が電気に触れたようなショッ

クを味わい、彼の意識は無くなった。

彼は倒れたが、髪は解ほどけずにそのままで絡み付き動いていて、姿見から伸びている髪と

彼の髪は、呼吸のように波打ちゆれている。

やがて彼の身体は萎しほみだし、密接に繋がった髪は、ゆるゆると時間をかけて、その作業を続けている。

1時間ほどで彼の身体は、骨だけになってしまい、彼の髪も姿見の髪も鏡の中に消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1905v/>

毛髪

2011年11月15日07時51分発行